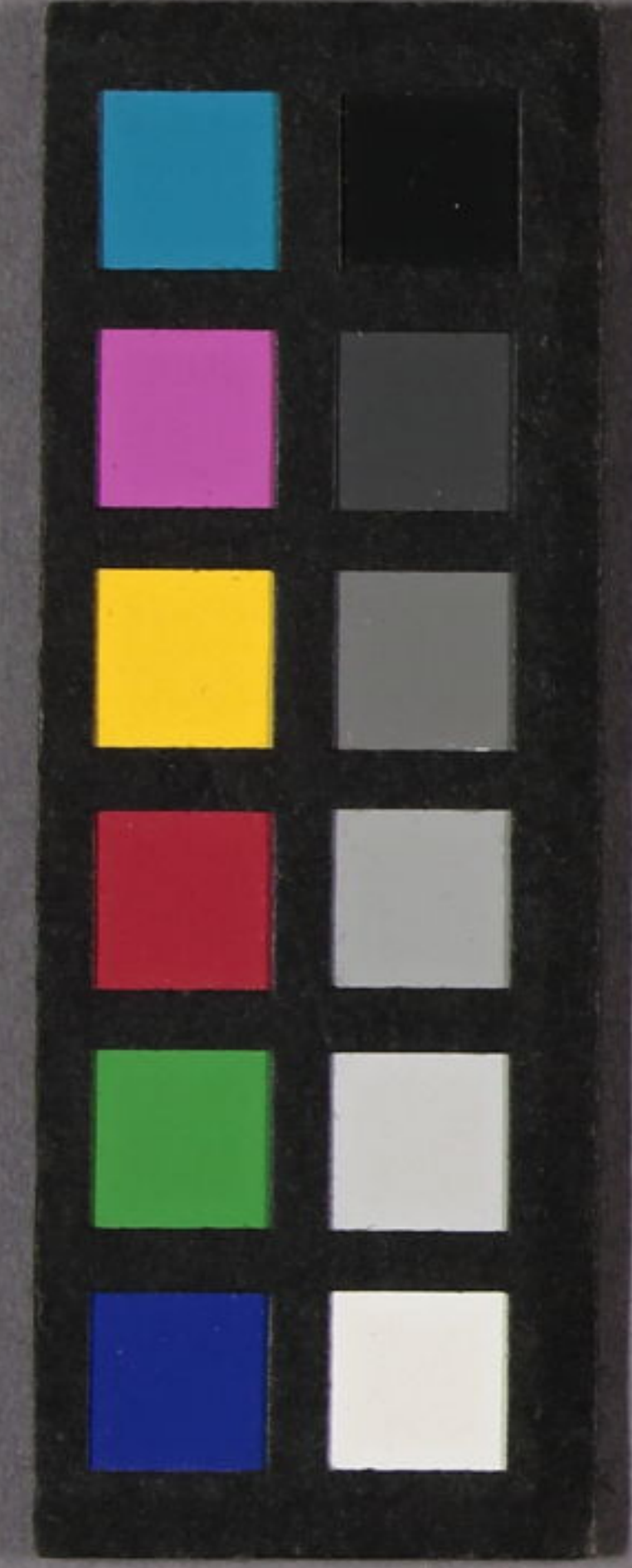


發  
錄  
諧  
九  
百  
題

梅  
海  
齋  
堂  
稿

八



桂海潮堂稿

定價三十五錢

發俳諧九百題

全二冊

東京

二書房出版

俳諧九百題 目錄表之類

正月一	睦月	年目	元日	正月	日始
今朝妻	不喜二	子代妻	唐妻	備妻	今年
初雪	初雪三	初雪	初雪	初雪	初雪
初夢四	足妻	葱方	年礼	以菜	年上
足水五	門松	掃餅	齒室	掛繩	田作
餅湯六	餅湯六	福菜	齒室	掛繩	田作
難考	太婆	蓬菜七	喰積	大福	李男
片降	稻積	初曆	子雞八	羽子	松方
福壽餅	二日	三十九	水祝	掃初	義名
弓始	筆始	湯散初	蕨耳	初若十	店節
櫻島	下歲	猪束	湯初	初登	福引

子曰 小如泉 番帝 人日 七種 紫 三  
兮 佛生 瓦菜 如色 鏡保 刺掛  
徑引三 左戰書 中人 招色 小山 香入  
響碧 以忘 綉踏 古風 余亭 冰返  
至海 冰解 立冰 流 殘雪 雪向 善雪  
冰室 香汁 香 共 和 香 夕 香 種 香  
同氣 長梁 湯茶 七 系 函 右 香 善 水  
善海 善川 六 善 向 山 笑 佐 保 照 善 山  
善風 卜 善 香 香 荳 五 九 蕪 善 州  
善茶 陰 風 木 芽 獨 活 二 野 香 梅  
月梅 白梅 共 聖 梅 梅 折 折 香 折  
善 梅 共 模 赤 模 招 不 香 善 三 百 香

字崔 香 齋 香 齋 掃 齋 白 齋 品 齋  
拾 海 香 二月 香 齋 二 月 香 齋 永 日 共  
初年 淨 齋 彼 齋 善 齋 善 齋 統 月 共 編 表  
善 蓮 白 善 月 善 齋 善 齋 統 月 共 編 表  
紅梅 初 不 幼 梅 梅 梅 共 接 本 梅 折  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉  
州 餘 白 海 曲 水 齋 合 沙 子 香 齋

目錄

二





蓮 不 白 蓮 蓮 兒 法 信 河 骨 太 蘭  
 蒲 荷 垂 荷 不 凌 骨 石 少 款 骨 魚 麻  
 麻 荷 綠 不 夫 射 于 石 蒼 不 百 日 紅 約 慈  
 空 五 虫 毛 虫 川 物 荒 築 打 沖 幹 小 蒜  
 冷 一 瓜 青 葉 瓜 心 古 冷 汁 吃 麥 干 五 飯  
 當 水 一 款 酒 形 代 以 飯 以 後 川 里 芽 椿  
 秋 正 左 源 秋 溝 玄 果

雜考凡百類 目錄 秋之類

七月一 二月 五 秋二 七 初 秋 末 秋  
 浦 秋 殘 暑 三 初 涼 亦 處 秋 洗 七 夕  
 星 系 星 連 四 星 今 宵 星 秋 梳 葉 五 冬  
 秋 系 貸 小 袖 五 報 河 冬 月 葉 葉 星 系  
 州 市 冬 市 六 考 春 奏 進 令 進 續 葉 葉 葉 葉  
 柳 經 瓜 瓜 瓜 於 錄 七 印 錄 香 燈 錄 之 上 轉  
 生 牙 魂 樹 葉 入 纏 葉 流 送 令 八 大 之 字 雜 葉 與  
 橋 待 隔 冬 令 角 力 九 糖 葉 系 二 年 日  
 稻 妻 秋 風 十 露 露 秋 茶 露 白 露  
 秋 香 土 夕 露 露 玉 霧 秋 霜 露 桐 葉  
 折 盤 土 秋 款 女 高 古 茶 不 桔 橙 崔 麥



冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜
冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜

冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜
冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜	冬 瓜

目錄

二

二





古曆	大年	鬼年	日	除日	小海日聖	大晦日
巻居曆	元年	年日	掛乞	除日		
春曆	大年	鬼年	年日	掛乞	小海日聖	大晦日
春曆	大年	鬼年	年日	掛乞	小海日聖	大晦日
春曆	大年	鬼年	年日	掛乞	小海日聖	大晦日
春曆	大年	鬼年	年日	掛乞	小海日聖	大晦日
春曆	大年	鬼年	年日	掛乞	小海日聖	大晦日
春曆	大年	鬼年	年日	掛乞	小海日聖	大晦日
春曆	大年	鬼年	年日	掛乞	小海日聖	大晦日
春曆	大年	鬼年	年日	掛乞	小海日聖	大晦日

發句俳社九百題

春の部

正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春
正月	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春	山崎の春

椿海潮堂 編

語石庵 校訂

春

年且

元日

自かろゆるんむ月の影存本 松什  
 ふる雪うらまを記年の止本 竹隈 松堂  
 静なきや年の日は人あふ本 浄水  
 元々やとれもさきく山の影本 藤介  
 元々もさけり雪の雁の脚本 成夏  
 元々此静初りゆく度少流本 甘流  
 元々やまふふさふさ如の敷本 雪城  
 元々もさや知念のけり本 素石  
 元々や新くも平水海の面本 晴伏  
 元々や田子たるもむひく本 乙亥  
 元々の項子まらり本 南歌  
 元々の人本 信濃 菅家

去妻

日始

元々の影存もろり本 大梅  
 妻らんや人のけり本 素水  
 妙子風のあつ本 新川  
 ちのつ本 芝角  
 木のくちよ妻ま乃燈本 白駒  
 ほくま本 伊勢 狛重  
 雪のくちよ妻ま乃影本 梅歌  
 妻のま色下服のり本 風硬  
 関所本 笑宇  
 年代本 美雅  
 松舟本 芸乐

春

二

山を幸ふ友よ日の光り  
 梨島の地穰りまや日の光り  
 多き者よ日くくくくく  
 と船の妻を愛しこのあつたあれ  
 あつた根の足つ初めつとあつた妻  
 むかふつとあつたつとあつた妻  
 天代の妻を愛し初めつとあつた妻  
 神の妻を愛し初めつとあつた妻  
 今船の妻を愛し初めつとあつた妻  
 三ひつとくくくくくくく  
 りやきよくくくくくくく  
 のきくくくくくくくくくく

孝  
 風  
 其  
 大  
 天  
 縣  
 九  
 浮  
 波  
 妻  
 及

老をける世の妻を愛し初めつとあつた妻  
 聖子の妻を愛し初めつとあつた妻  
 常子の妻を愛し初めつとあつた妻  
 世の妻を愛し初めつとあつた妻  
 人の妻を愛し初めつとあつた妻  
 あつたよき世の妻を愛し初めつとあつた妻  
 ちりもなき世の妻を愛し初めつとあつた妻  
 のと光神を愛し初めつとあつた妻  
 是を愛し初めつとあつた妻  
 蓬萊を愛し初めつとあつた妻  
 あつた初めつとあつた妻  
 長河の妻を愛し初めつとあつた妻

孝  
 風  
 其  
 大  
 天  
 縣  
 九  
 浮  
 波  
 妻  
 及

春

浦真 正月のいづつは海平屋の真  
海人の屋もやまろく浦のまろ  
あし引ねや舞子のうらら真  
信の上よのいさぎまろく浦の真  
およふらうら屋の舞のこころ  
子こししむのわらち中屋  
初忠の高巾子河り聖の清  
初まろよかよまろくや 泰山  
まろ忠やまろくまろく一海と山  
波の先踏をまろくまろくわの  
まろまろくまろくまろくまろく

今年 上カ 若 松 竹  
およふらうら屋の舞のこころ  
子こししむのわらち中屋  
初忠の高巾子河り聖の清  
初まろよかよまろくや 泰山  
まろ忠やまろくまろく一海と山  
波の先踏をまろくまろくわの  
まろまろくまろくまろくまろく

初冬 上カ 若 松 竹  
およふらうら屋の舞のこころ  
子こししむのわらち中屋  
初忠の高巾子河り聖の清  
初まろよかよまろくや 泰山  
まろ忠やまろくまろく一海と山  
波の先踏をまろくまろくわの  
まろまろくまろくまろくまろく

初日 上カ 若 松 竹  
およふらうら屋の舞のこころ  
子こししむのわらち中屋  
初忠の高巾子河り聖の清  
初まろよかよまろくや 泰山  
まろ忠やまろくまろく一海と山  
波の先踏をまろくまろくわの  
まろまろくまろくまろくまろく

初冬 上カ 若 松 竹  
およふらうら屋の舞のこころ  
子こししむのわらち中屋  
初忠の高巾子河り聖の清  
初まろよかよまろくや 泰山  
まろ忠やまろくまろく一海と山  
波の先踏をまろくまろくわの  
まろまろくまろくまろくまろく

初冬 上カ 若 松 竹  
およふらうら屋の舞のこころ  
子こししむのわらち中屋  
初忠の高巾子河り聖の清  
初まろよかよまろくや 泰山  
まろ忠やまろくまろく一海と山  
波の先踏をまろくまろくわの  
まろまろくまろくまろくまろく

春

初嘉

初嘉戸志重の戸より春新の白  
 初嘉戸婦よ河津の雪の香  
 春のわに佳節のうらや初嘉の  
 晴くし出珠の結乃ちつかほ  
 空をうらゆる初嘉上毛  
 春のそよよるははれと雲々々々  
 己の身もまよふか何れと云  
 柳うらまゆる初嘉よまつら  
 初嘉風戸結のかつら行かぬ  
 初嘉風戸海をがえと初嘉  
 初嘉風戸つゆのよ初嘉  
 初嘉戸中人あはれ酒仕度

双鳥  
 初  
 風  
 柳  
 女  
 一  
 士  
 梅  
 初  
 一  
 初

初嘉

初夢

若夫

真方

年終

二度春よよい初嘉を志重  
 初夢戸結し春の長も初嘉  
 人先よ初夢又を初嘉  
 春天を初夢の初嘉  
 里の子よ初嘉も初嘉  
 春よ初嘉し初嘉  
 初嘉初嘉初嘉  
 初嘉初嘉初嘉  
 初嘉初嘉初嘉  
 初嘉初嘉初嘉

抱儀  
 冬  
 初  
 不  
 山  
 小  
 常  
 白  
 沙  
 素  
 錦

以茶

手玉

水

眼金より通る程若くしう梅 武蔵 福照  
 松風千載よりしう程若くしう 在女  
 箕左の口よりかゝる程若くしう 白彦  
 往還の節よりしう程若くしう 重双  
 梅子の舌の厚よりしう程若くしう 羅紅如  
 手玉の徳よりしう程若くしう 確岩  
 手玉は先よりしう程若くしう 吉武  
 水は星の光よりしう程若くしう 俊州  
 井の底よりしう程若くしう 玉泉  
 井の底よりしう程若くしう 水  
 井の底よりしう程若くしう 布衣  
 井の底よりしう程若くしう 秀若

門松

梅鉢

萬葉

萬葉の千載よりしう程若くしう 桂  
 水は星の光よりしう程若くしう 梅  
 井の底よりしう程若くしう 乙  
 井の底よりしう程若くしう 為一  
 井の底よりしう程若くしう 峰  
 井の底よりしう程若くしう 文  
 井の底よりしう程若くしう 葉  
 井の底よりしう程若くしう 尺  
 井の底よりしう程若くしう 白  
 井の底よりしう程若くしう 以  
 井の底よりしう程若くしう 伯  
 井の底よりしう程若くしう 乃

春

六





初は... 梅の春... 梅...		西... 白... 梅... 五... 菊... 草...
<b>太筆</b> ... ... ... ... ... ... ...		梅... 菊... 草...
<b>蓬萊</b> ... ... ... ... ... ... ...		梅... 菊... 草...

<b>喰様</b> ... ... ... ...		西... 白... 梅... 五... 菊... 草...
<b>大福</b> ... ... ... ... ... ...		梅... 菊... 草...
<b>手男</b> ... ... ... ... ... ...		梅... 菊... 草...
<b>此降</b> ... ... ...		梅... 菊... 草...

春

稻積

手鞠

初曆

此際をいふのまじりしは	成后	真実
此際ゆつふ海あうきまをなし	甲斐	彦貴
此際のつらき涙のくさねは	信濃	岡崎
いよつとや	能登	梅笠
乃てまを稲ふけさし	出雲	九郎
稻積や	備前	初亦
稻積や	上毛	丹次
初曆き	備前	惟孝
りりか	備前	貞富
手鞠	信濃	文友
月本を	中野	里崎
古曲		中野

羽子

破唐弓

のくさくさ	武蔵	中野
意をき	法橋	法橋
味も	武蔵	四友
人の	飛騨	弄墨
実	蒲田	蒲田
と	完路	完路
き	号笠	号笠
唐	伊豆	建永
き	雲山	雲山
破唐弓	東明	東明
た	一桂	一桂
た	源盛	源盛

春

九

福壽州

徳多子誠まきく見うろ福壽州、  
 のまわくくくくくくく福壽州、  
 物よまきくくくく福壽州、  
 少くくくくくくく福壽州、  
 招分くくくく福壽州、  
 えうんたくくくく福壽州、  
 二りまきくくくく福壽州、  
 呪の人あうゆくく福壽州、  
 毒くくくくくく福壽州、  
 えりまきくくく福壽州、  
 とくくくくくく福壽州、  
 少くくくくく福壽州、

素石、  
 芹金、  
 真字、  
 歌山、  
 叫梨、  
 忌お、  
 長歌、  
 大高、  
 吉高、  
 言尔、  
 大高、  
 昨高

三り

二り

水祝

掃初

若原路

弓始

おまきくくくくくく、  
 目即度まきくくく、  
 いままきくくく、  
 そのまきくくく、  
 まき初のまきくく、  
 掃まきくくく、  
 まきくくく、  
 儀よまきくく、  
 とまきくく、  
 寡のまきくく、  
 先達のまきくく、  
 まきくく、

一山、  
 双、  
 松竹、  
 幹山、  
 の金、  
 花糸、  
 真源、  
 知権、  
 一院、  
 精志、  
 輕友、  
 言山

春

筆始

初夕の糸の長きひや筆始 糸  
 上初や光を高くし筆をまひ、 花  
 古筆もつるやくもたうりも、 柱  
 子の鏡のそよ子仲たう吉と加、 素  
 雪初や人よあうきぬ初の内 伊勢 橋  
 昔本走まきと初を湯底まゝあふ 糸 素  
 元七も山底もくく湯底初あふ、 五  
 夕初ひくく湯底初あふ白ひ元、 休  
 新しき筆わくくや花初あふ、 宇  
 自由たさを初あふ初あふ、 原  
 向くくく初あふ初あふ、 山  
 舟

糸

花

柱

素

橋

伊

五

休

宇

原

山

舟

花開

初花

店新

掛書

初花や梅いともあふ小梅 梅  
 約後ハ元女のかさうや店新 梅  
 人あふいふもあふあふあふあふ 梅  
 兄あふいふもあふあふあふあふ 上  
 人の名もあふあふあふあふあふ 梅  
 ふともあふいふもあふあふあふあふ 梅  
 万葉の屋敷もあふあふあふあふ 梅  
 万葉の末もあふあふあふあふあふ 梅  
 万葉や上もあふあふあふあふあふ 梅  
 万葉の舎もあふあふあふあふあふ 梅  
 万葉やあふあふあふあふあふあふ 梅  
 万葉のつらあふあふあふあふあふ 梅

梅

上

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

春

上

猿泉

岸猿の福子めぐるや番煙草

漢物  
梅字

ゆきけを猿の群やぢぢぢ

梅通

きりぎりすにまてこゆり小舟を

倉

きりぎりす河をまわつて海へ

西

まきりぎりすやちりも海へ

乙

まきりぎりすやちりも海へ

大

まきりぎりすやちりも海へ

小

まきりぎりすやちりも海へ

小

まきりぎりすやちりも海へ

丁

まきりぎりすやちりも海へ

己

まきりぎりすやちりも海へ

己

淫初

まきりぎりすやちりも海へ

西

まきりぎりすやちりも海へ

大

まきりぎりすやちりも海へ

小

まきりぎりすやちりも海へ

小

まきりぎりすやちりも海へ

丁

まきりぎりすやちりも海へ

己

まきりぎりすやちりも海へ

己

初巻

まきりぎりすやちりも海へ

丁

まきりぎりすやちりも海へ

己

まきりぎりすやちりも海へ

己

福引

まきりぎりすやちりも海へ

己

子の白

まきりぎりすやちりも海へ

大

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

小松泉

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

春節

まきりぎりすやちりも海へ

文

まきりぎりすやちりも海へ

文

人の

任者も人のりとある往來のつら  
人の口戸跡—きまのきまの  
人の口戸おろしあけきまのきまの  
人の口戸ありて落葉—くまの

鼻左  
寸風

七種

七種戸窓川のきまのきまの  
七種戸掃よきのきまのきまの  
七種もあつてえののきまの  
七種ゆるりあきまのきまの  
かきねのきまのきまの

一具  
桐古

蕎

蕎麦はあつてえののきまの  
蕎麦ゆるりあきまのきまの  
蕎麦ゆるりあきまのきまの  
蕎麦ゆるりあきまのきまの  
蕎麦ゆるりあきまのきまの

漢岳  
舟強  
華雅  
中節

芥

芥子油のきまのきまの  
芥子油のきまのきまの  
芥子油のきまのきまの  
芥子油のきまのきまの  
芥子油のきまのきまの

一  
初名

佛

佛のきまのきまの  
佛のきまのきまの  
佛のきまのきまの  
佛のきまのきまの  
佛のきまのきまの

以  
風

茶

茶のきまのきまの  
茶のきまのきまの  
茶のきまのきまの  
茶のきまのきまの  
茶のきまのきまの

希  
露  
茶

春

十一

松田

雪のけしき二葉二葉つゝあまたいし  
 おしあつた所の膏森や松の肉  
 羽織の着て居る者もゆかたの肉  
 おまひあつた子のあつた松の肉  
 降つた雪もあつた松の肉  
 中世もさふさふさふさふさふ  
 仙又つゝもさつゝもさつゝも  
 後保を繞るまきの上はつた  
 ろりのまき代のはちみつ  
 おくさくさくさくさくさく  
 雪のわの松をえんたつり  
 松田や羽織投もか徳子先

里 脇  
 氷 蓋  
 眉 山  
 雀 橋  
 南 山  
 楊 葉  
 和 舟  
 南  
 思 雄  
 長 松  
 一 山  
 昇 石

十三

松田

松田

松田

松田や名角様の人、クマリ  
 松田や木のきりねをまがり  
 左義太夫もまきよゆきの松の輝り  
 左義太夫の輝りよるゆる小里もな  
 左義太夫の輝りよるゆる小里もな  
 新くも下詔の園にうけいんさく  
 松田やあつた松の肉  
 松田やあつた松の肉  
 松田やあつた松の肉

山 崎  
 氷 蓋  
 岳 松  
 久 懐  
 川 子  
 碓 氷  
 獨 碑  
 如 川  
 赤 丘  
 蘆 花  
 本 堂  
 海 岸

春

十四

小石川

小石川のきしむるや小石川  
子よつれと遠くをゆく小石川

確 本

藪入

藪のやぶにうらむるや  
藪ののちちうらむるや

本 宗

響登

うらむる人を往來を横きき  
うらむる人を往來を横きき

麻 宗

以忘

うらむるや小石川  
うらむるや小石川

杜 如

繪端

うらむるや小石川  
うらむるや小石川

向 光

卯

卯の糸をよめてゆく  
卯の糸をよめてゆく

成 雪

余亭

山をのぼる藪後の余亭  
山をのぼる藪後の余亭

乙 徳

以返

市中也を柳枝をよめる  
市中也を柳枝をよめる

乙 水

春

十五



雪輝

中央の雪ききかたる氷影は  
雪影やまきかたる煙の形  
雪影や松葉のうららかな葉  
山のゆきまはるききかたる  
雪影や地息子の山境の山  
ゆきまはるききかたる  
雪影や松葉のうららかな葉  
雪影や松葉のうららかな葉  
雪影や松葉のうららかな葉  
雪影や松葉のうららかな葉

雪影  
雪影  
雪影  
雪影  
雪影  
雪影  
雪影  
雪影  
雪影  
雪影

凍解

凍解や氷のうららかな葉  
凍解や氷のうららかな葉  
凍解や氷のうららかな葉  
凍解や氷のうららかな葉  
凍解や氷のうららかな葉

凍解  
凍解  
凍解  
凍解  
凍解

氷流

氷流 杜先より氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉  
氷流 氷のうららかな葉

氷流  
氷流  
氷流  
氷流  
氷流  
氷流  
氷流  
氷流  
氷流  
氷流

鏡雪

鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉  
鏡雪 氷のうららかな葉

鏡雪  
鏡雪  
鏡雪  
鏡雪  
鏡雪  
鏡雪  
鏡雪  
鏡雪  
鏡雪  
鏡雪

雪弓

雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉  
雪弓 氷のうららかな葉

雪弓  
雪弓  
雪弓  
雪弓  
雪弓  
雪弓  
雪弓  
雪弓  
雪弓  
雪弓

春

春雪

春の雪 雪のそよそよと  
降よるの雪 雪のそよそよと  
下地の雪 雪のそよそよと  
春の雪 雪のそよそよと  
味雪の雪 雪のそよそよと  
雪汁の雪 雪のそよそよと  
雪の雪 雪のそよそよと

春雪 雪のそよそよと  
味雪の雪 雪のそよそよと  
雪汁の雪 雪のそよそよと  
雪の雪 雪のそよそよと

味雪

雪汁

雪

積雪

春の雪 雪のそよそよと  
降よるの雪 雪のそよそよと  
下地の雪 雪のそよそよと  
春の雪 雪のそよそよと  
味雪の雪 雪のそよそよと  
雪汁の雪 雪のそよそよと  
雪の雪 雪のそよそよと

積雪 雪のそよそよと  
味雪の雪 雪のそよそよと  
雪汁の雪 雪のそよそよと  
雪の雪 雪のそよそよと

春







防風

木芽

福活

梅香の徑よりくさや春の空

春の料人の道ぬきも春

ふと此は砂よりかき防風

防風や料人の道ぬきも春

防風は里迄もや砂地や

春の料人の道ぬきも春

春の料人の道ぬきも春

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

和月

梅香

素玉

雨後

春暮

古き

梅月

万雪

一様

梅香

梅香

田高

聖老

梅

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香の徑よりくさや春の空

梅香

梅香

梅香

梅香

梅香

梅香

梅香

梅香

梅香

梅香

梅香

梅香

春

上二



五香の道不備道の折ト 菊四  
 引香了教接つる折ト 下毛 牛号  
 若和子かきる岸の柳ト 佐信 白峰  
 片枝の望らしト ある平如きト 牛字  
 一のふいふぬ教の平如きト 是年  
 芳折戸和の生空をらんを度る 杜依  
 香くの月ぬ子芽もる折ト 一羽  
 芳居 林草  
 芳折戸のつれと芽のつれと折ト 芳居  
 青折戸道毛吹きと成教ト 林草  
 青折戸のぬをらんをト 一の厚  
 青折戸のぬをらんをト 重考  
 青折戸のぬをらんをト 墨遊

芳折

青折

青折よ東出れ馬のきんト 若水  
 折町や横子よれト 五左  
 葉もよつれト 斗大  
 長いもを蒼々ト 雲山  
 各折も一のえト 浪巻  
 折をれト 月底  
 赤折ト 某乳  
 一の折ト 一峰  
 秀若 桂美  
 若川 一止

横

赤横

松

春





七十四

冬

潜平きつる冬の羽根雪の如き  
鴨子ももさきも雪やあつた

天邊  
如鳥

梅

木どれのも春も梅一平春さつる  
春くわい子あれて中春さつる

古杖  
白雪

白

折るハ盤おもてきられねこり  
無梅ともかくはあつる新梅

岩手

魚

河ノ鰯をいゆる春さつる梅の  
網まもころろ梅ゆり方さ

岩手  
魚

魚

白魚の親もあつた  
ふる中春もさつる南四川

岩手  
魚

魚

白魚やあつた  
ふる中春もさつる南四川

岩手  
魚

蛭

白魚やあつた  
ふる中春もさつる南四川

岩手  
魚

蛤

市中の冬もあつた  
蛤の崩さつた

岩手  
魚

海苔

生海苔もあつた  
ふる中春もさつる南四川

岩手  
魚

二月

町中の流き子のさつる二月  
海苔もあつた

岩手  
魚

ふる中春もさつる南四川  
海苔もあつた

岩手  
魚

春

十一

衣子

よの本まゝの衣子の時六月  
約産の松保り子受る六月  
まきまき衣子の思もねをうの  
まきまき衣子の思もねをうの  
まきまき衣子の思もねをうの

二の巻

二の巻 蒸 蒸 蒸 の つ れ り 生 来 子 子  
まきまき 料理 好 好 好 二の巻 蒸 蒸  
まきまき 料理 好 好 好 二の巻 蒸 蒸  
まきまき 料理 好 好 好 二の巻 蒸 蒸  
まきまき 料理 好 好 好 二の巻 蒸 蒸  
まきまき 料理 好 好 好 二の巻 蒸 蒸

出代

出代の清い下かつはまきまき

至孝 布丈 由誓 可糖 二の厚 由誓 佳山 士明 出莊 一巻 添堂 雪老

初午

出代中女のときとけ松  
出代中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月

温察寺

初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月

徳岸

初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月  
初午中女あはれおあー二月

東女 徳山 漢物 丁知 佛兄 常園 四山 嵐富 万重 升子 志徳 長莊

春日

柳橋の空を渡る雀の往來は

春のや煙より霞き小松原

庭柳の砂子より春のまらふ

東院の上かゝる子り春のうら

春のや煙より霞き小松原

降ゆきさく空の霞をし春の空

四五丁よりうらむ春の空

空の風はあまの吹あり春の空

の春の空をうらむ春の空

空のまらふ春の空をうらむ

永きりともあはれいさかひは

いさかひのあまの吹あり春の空

涼水

空里

里川

昇月

屏風

漢物

舎用

己休

茶丸

江月

伯富

生布

暮遅

林訓て細の網をうらむ永きり

空のまらふ春の空をうらむ

暮遅きるや終はる宙の如し

暮遅きる流れて居るや春の川

空のまらふ春の空をうらむ

暮の時に佳くはるや春の月

暮のや煙より霞き小松原

暮のや煙より霞き小松原

暮のや煙より霞き小松原

暮のや煙より霞き小松原

暮のや煙より霞き小松原

暮のや煙より霞き小松原

林歌

庭知

暮一

岳中

確岩

以兄

里若

暮若

暮若

暮若

暮若

暮若

春

廿二

美音

名を呼ばぬ子とて美音の音

花若くは一人は美音の音

雨集めたるは美音の音

日とて子居るは美音の音

美音の音の梅とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

祖山

乃山

肩山

守耕

美柳

梅令

一行

美山

徳山

昇月

乙人

杜流

鑑月

言初と鑑を引戸流の月

梅子と月牛持たり鑑つと

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

祖山

乃山

肩山

守耕

美柳

梅令

一行

美山

徳山

昇月

乙人

杜流

鑑月

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

春

廿八

紅梅

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

一止

儀物

代手

京師

末山

五梅

鑑月

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

美音の音の音とて美音の音

一止

儀物

代手

京師

末山

五梅



蒲葦

采のふを妻のくしちる畢うと  
 甲斐 子公  
 采のむやクワりのりたる町糸並  
 上巻 三好雄  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中

蕨

蕨

采のふを妻のくしちる畢うと  
 甲斐 子公  
 采のむやクワりのりたる町糸並  
 上巻 三好雄  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中

山筆

采のふを妻のくしちる畢うと  
 甲斐 子公  
 采のむやクワりのりたる町糸並  
 上巻 三好雄  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中

楊柳

菜苗

采のふを妻のくしちる畢うと  
 甲斐 子公  
 采のむやクワりのりたる町糸並  
 上巻 三好雄  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中  
 采のむや 葦子ちりき 孫や中  
 采は手 五別 並く下りの隆  
 白中

春

南岸

船夕の夕に... 岸の南

我后

柳並

種奇

人のまを種さく... 種奇

上毛

一具

種奇... 種奇

如丹

種奇... 種奇

春

種奇... 種奇

春

苗代

苗代... 苗代

素手

苗代... 苗代

素手

畑

畑... 畑

素手

畑... 畑

素手

畑... 畑

素手

田

田... 田

素手

田... 田

素手

山

山... 山

素手

春

三十一



山燒子月もとくも木のつる 上毛 牛焼  
 香しき見子出る山の焼子なり、 末重  
 山の焼子向來僅は重なり柿 如丹  
 暖中焼聖の何との香もなり 系 杜若  
 一耕地もよき聖空の燈り 系 梅津  
 系つ出るよは田畑もよき聖 系 綿雪  
 松小松々しき聖空もよき 下毛 尚川  
 いろくの香の香もよき 信濃 桐月  
 船岩のいち先らしき 系 下人  
 雲よけもよき 系 白彦  
 乙香の来るもよき 系 凸山  
 乙香の来るもよき 系 梅付

乙香の来るもよき 系 助耕  
 乙香の来るもよき 系 一守  
 乙香の来るもよき 系 可空  
 乙香の来るもよき 系 相心  
 乙香の来るもよき 系 立宇  
 乙香の来るもよき 系 三山  
 乙香の来るもよき 系 澄山  
 乙香の来るもよき 系 蟻見  
 乙香の来るもよき 系 山系  
 乙香の来るもよき 系 白彦  
 乙香の来るもよき 系 鹿英  
 乙香の来るもよき 系 一秋  
 乙香の来るもよき 系 里貴

春

三十一

帰石

神子居海より候きき言よ  
都て上は池子行一戸浦の石  
新見申る石子新あり別ま  
り居戸おらま結言まは屋係り  
田の妻のあまふ一まやうる石  
言まふま空のまは石居る石  
二ツ居る夕暮りあぬ妻の石  
おそれまふままは石居る石  
まかりまらふ人けりまの石  
都て東光候戸石のあまま  
東歸る時候りま歩りま  
東のまおわつらあまはま

大衆

為山

末呂

種好

為乃

桂水

松竹

二丘

衆人

色陶

素行

細心

妻石

新川

鴨川

雀子

蜂

香の菜

蛙

ううう鴨の居あま機掃も  
菊並井の園菜まは石居る石  
甜まあれま人新教や雀の子  
二ツ居る二ツおまらし雀の子  
菜ままら蜂や頻子まのあ  
蜂の菜や子然のまら垣乃介  
香の菜やあままは似然ま不  
菜まはま香の結末や川南ふ  
向の口や整のまはら菜ま香  
柳先の茎ま菜まら雀ま  
つ程子あまあまらしかま  
蛙まのま子月らり啼まら

文器

世

長乐

即光

乃善

文様

松竹

乙言

萱办

流峯

古書

杜徳

春

三三

忙 蝶

有晴をくく持るはかきり  
森のよき木をくくく忙り  
忙りありかきり忙り  
月影やありし子屋のまの忙  
ありし木を浮くんさる忙り  
身のみまのきとありし忙り  
忙りありし子屋のまの忙  
忙りありし子屋のまの忙  
忙りありし子屋のまの忙  
忙りありし子屋のまの忙

進 野  
村  
本  
万  
白  
由  
黄  
成  
深  
貴  
鹿  
梅

田 蝶

蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり  
蝶をくく持るはかきり

一  
後  
木  
柔  
水  
併  
里  
梅  
子  
由  
目  
為

角

子

之

春

三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり  
三月 蝶をくく持るはかきり

尾

目  
為

生

二月や蝶子納り居るのさ  
 二月や舟のりふきおの山下サ  
 二月の縁見申るや向ふ山  
 左きのあき色や生生の豊多  
 海山子ふの何あう生生、つ毛  
 志まうまの唇か祿る生生、  
 小守の孫するのいぬき生生、  
 岸て居ても字外のぬる生生、  
 宙のらへ宙も長栄き生生、  
 うるれり離れ市ぬぬのいど  
 とのりぬ、子集、ゆる離れ、  
 燈の光りうつるや離れ、

梧 青 舟 藤 兄 糸 以 香 久 香 糸 箇 吾 風 扇 雲 三 匠 決

離

きーとと、是のんようーや市の離  
 岸のりも登登ののさる離、  
 入登りつるさる離れ、  
 志まうまの唇か祿る生生、  
 子集や弟、ふの、糸の生、の家  
 志まのちも本登り、  
 舟解り、娘の後、紗のそま、  
 橋、子の先、あう、  
 糸、海、の、縁、通、春、  
 海、好、子、離、の、さ、け、  
 志、ま、う、ま、の、上、ま、  
 志、ま、う、ま、の、上、ま、  
 志、ま、う、ま、の、上、ま、

糸 香 久 香 糸 箇 吾 風 扇 雲 三 匠 決

料

白

曲

春

鷄合

傳真のまゝにんえは鷄合

合

志象

毛の衣もん見えたり鷄合

合

系雄

沖子

冷くも川の末ふおけり子

合

江平

洗ふ手子夕風さかきけり子

合

里妻

元の海子しを度りたり子

合

松崎

まろくも花のまゝにけり子

合

まの女

會食

會食よあとのの佳節の節

合

系雄

梅志

梅志はあとのの佳節の節

合

而込

明峰の

おの空のまゝに梅志

合

由擧

壬生島伝

壬生島伝のまゝに梅志

合

一具

石

石のまゝに梅志

合

由擧

あつた中本もあつた梅志

合

梅志

春

三

春風をよみかきけりては  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす

園富  
兼子  
那耕  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山

花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす  
花見の心もさかす

一之  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山  
山

春

三十一

梅

あつちある借名やむの向舎り  
のいさそ梅はなれはうし梅山  
咲きあつちうし素あきさうし  
森敷りもかろきさうのりり  
神のち梅はも結るははち梅  
山免りしそ梅のうしさうし  
夕景や梅のちるもあささ  
咲きつた子鹿ししち梅  
山きさうし人子梅さうし  
香の都か山梅咲ぬら  
さやうし又そあささ山さうし  
け先梅はうしさうしや梅さうし

出書

葉山 丹原 里崎 月崎 松崎 葉山 芳居 一陸 確茂 古武官 未呈 確茂

山梅

連梅

梅

待冬い霞の里あり梅さうし  
海のき梅さうし木の子の梅梅  
連さうしさうしの梅さうし  
不梅のさうしさうしや向の中  
梅咲や伏んぬの梅の梅梅  
梅あつちりり梅屋や梅の梅  
梅さうし梅咲さうし出あつち  
洗濯のかけ梅さうしや梅の梅  
山風の梅さうし梅さうし  
梅さうし梅さうし梅の梅  
梅梅の梅の梅さうし梅梅  
梅梅や梅梅さうし梅梅

尾書

梅堂 雀堂 月秋 鶴水 梅さ 不い 梅さ 梅さ 一山 梅堂 梅堂

海棠

春

春

海棠や耳子沙りし膏り向  
 海棠や向のかきこし時あこり  
 木所不 養うく其りねとあり木所の出 土佐  
 夕暮の際立咽や 木所乃む 徳赤  
 空燒と流るん申進木所のみ 位徳  
 新不 ねく無兼てんれお新子針は海  
 海人の子のむとぬも無新下  
 伸る程伸てん不きとんはさ  
 梨子不 梨子極やんる木よあれは木所 忠  
 五子きん月影空しし梨子のむ 上十  
 峰遊子かきれてあるや梨子の不  
 父母のこふくはつらういふま

獨 一 嶺 夕 松 夜 水 一 具 倉 沙 暮 遊 倉 里 孤 牛 確 然

高まの枝よとるれりしふり  
 甲子のよき向ふるやこふり  
 かうきりの如きと重やこふり  
 連朝の葉ハ光えのよとるれのみ  
 連朝や余のふあこは垣の亦  
 連朝や葉まこし伸てん若をう 土羽  
 雲々の降し命のん申るや石梯む 上毛  
 標をれつるもの恋し石梯む  
 きんはくを度つ場子暗つ  
 山はらのあつるありとる希つし  
 笠の指よきとるるりしし 土羽  
 土羽 三カク  
 春 依 依 依

山 亦 乙 居 蒼 丘 長 莊 石 考 雄 崖 露 苔 松 海 菅 舟 木 桑 有 露

春

三十七





呼子香

美鳥

雲子香

櫻網

鳥粘

いそよの香呼子香仲まろり

南枝の伸て細くやそかへん

新氣の清子よきけや呼子香

呼子のと雅く荒るて呼子香

風子羽をのきてあかや美の香

夕風子あつれう南や美の香

香雲子乃くや志をく風もあき

香雲子入香や香あき清のく

香雲子乃るや香あき清の月

採人のよい出舟りりさるる網

高とるもえんを提りりさるる網

鳥粘やつりの呼子香あつれ

知月

白動

墨出

産造

西馬

橋架

柳浦

栗人

呼紫

西馬

一具

溪向

船言

末本

双折

素手

由誓

蓬宇

里孝

折加

雲涯

采葉

雀橋

葉子

美葉

鳥粘や等もさるる香

鳥粘の鳥まよるる市四市

清健の鳥まよるるふけゆゆ

鳥粘や清く通はりの熱を

人の鳥粘もとりあわゆる

葉と子よまよるる香葉子

き葉の葉まよるる香葉子

尾まよるる香葉子の葉子

まよるる香葉子の香葉子

田の鳥の鳥まよるる香葉子

ふとる鳥の鳥まよるる香葉子

鳥の鳥の鳥まよるる香葉子

春

四上

船塞

帆ふきききと操とると夢よりんて

紀

古武

一吐し海に帆塞を〜めり

折葉

素泊

帆塞を海に〜きつりてり

紀

嵩高

素泊のきし波やのま〜めり

下毛

梅不

素泊

山隈のま〜りき〜

下毛

桂淋

り素

素泊のきし波やのま〜めり

伊勢

一具

り素のきし波やのま〜めり

伊勢

桂山

船塞九万影 百五と船

樓海潮堂編

四月

四月のきし波やのま〜めり

蒼北

四月のきし波やのま〜めり

有岸

四月のきし波やのま〜めり

古武

四月のきし波やのま〜めり

以兒

四月のきし波やのま〜めり

燕枝

四月のきし波やのま〜めり

大江

四月のきし波やのま〜めり

海布

四月のきし波やのま〜めり

浪亭

夏

折月

其義の事は不きと折月  
千のいふの事はれと折月  
山の雲の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月

梅室  
由誓  
卓那  
祖心  
美芳  
泉水  
菅丸  
英丈  
尺塔  
藤丸  
雅炭  
雲空

三五

初五

文衣

其の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月  
折の事と見申す折月

梅室  
由誓  
卓那  
祖心  
美芳  
泉水  
菅丸  
英丈  
尺塔  
藤丸  
雅炭  
雲空

係板

初裕

夏

二

裕

信若くは豊のうへりて遊び  
いづれは才なる侍居る信うえ  
出先いづれ信なるあつて床りり  
りりりりりりりりりりりりり  
若くは信のあつてのうへりて  
信若くは豊のうへりて遊び  
連つてのうへりて遊び  
居る度なるうへりて遊び  
いづれは才なる侍居る信うえ  
空子なるうへりて遊び  
若くは信のあつてのうへりて  
余不子なるうへりて遊び

斗英 心 素 折 折 杜 折 折 西 西 士 達

青

純厚系

催

若くは豊のうへりて遊び  
いづれは才なる侍居る信うえ  
出先いづれ信なるあつて床りり  
りりりりりりりりりりりりり  
若くは信のあつてのうへりて  
信若くは豊のうへりて遊び  
連つてのうへりて遊び  
居る度なるうへりて遊び  
いづれは才なる侍居る信うえ  
空子なるうへりて遊び  
若くは信のあつてのうへりて  
余不子なるうへりて遊び

田 飯 梅 昇 匠 老 吾 志 存 隆 長 連

佛

生會

夏

三

花出半

皇子之風ハそまありむは半

三

橋人の遠路ハあやふは半

伊賀

都築橋

手そと免ていやあきなりむは半

佐原

岩尾

反籠

反籠の煙りそまや丘の巻

上毛

分尾

反書

以風小乗の屋一まひや反子籠

甲斐

斗一

ひる白子座きあけて反出

岳後

海半

唯る来一そ反出の勢子む一担

書ハ女

素折

勢子むそは籠て反出の丸

素折

梅屋

新葉

月さほそまて川を新葉

梅屋

白鹿子巻ハ何けて新葉

不

万子

長白の巻つりまき新葉

成石

学不

山方のあまよふ新葉

伝法

扇二

強を待そむのけあき新葉

由

由

藤若子巻ハ新葉

有

有

あまそまふんそまや紐のし

葉

葉

あまそまふんそまや紐のし

乃

乃

字の葉のまきもつり紐一

崔

崔

換抄ハまき紐をや反出

上毛

玉

結末ハよき塩梅や反出

結

結

味もまきもまてあき新葉

結

結

初結

夏

四

招魚

手裏のや志進りしを招  
去の羅人山舟を走りたり  
我のこりやう子提り 羅人  
羅人 羅人 羅人 羅人  
耳子ふれ眼子ふれ 羅人  
かけ出してさう 羅人  
こころ 羅人 羅人 羅人  
こころ 羅人 羅人 羅人  
こころ 羅人 羅人 羅人  
こころ 羅人 羅人 羅人

双鳥 挿湯 尺舟 刺 氏 志一 白峰 老圃 墨迹 梅笠

楓秋

友の秋や歩りて居る風の色を  
友の秋や楳子りて水邊を  
月ひつて多層のあき秋夜  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋

名采 希康 三味 一具 芳樹 梅水 挿葉 一介 里村 梅葉

あき秋

友の秋や歩りて居る風の色を  
友の秋や楳子りて水邊を  
月ひつて多層のあき秋夜  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋

名采 希康 三味 一具 芳樹 梅水 挿葉 一介 里村 梅葉

多層

あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋  
あき秋のあき秋のあき秋

名采 希康 三味 一具 芳樹 梅水 挿葉 一介 里村 梅葉

白りつ子想ふ條あるを

るを存しつと云然りとも

らちつと風を運りつと

青嵐

予つとて月夜子あり

本條の本はよきし

後のみつとつと

何れなき想ふ

まか何れし

爰秋

櫛をいづのみ

眼やりのを秋の

未だなき

貸の中より

雪垂

鬼柳

彦雅

深

一

万子

在

雀

借月

余

有

雪

菊

必

柳

暉

風

素

屋

石

介

月

底

荷

半

涼

白

高

乙子の思ふと云はれ

留守の家より

山の雪を

入る聖なる

木の櫛や

秋の暉を

折る入

昔の所の中

昔の

昔の

板屋

板屋



紙牀

藤橋子の造りや好屋の造りし如  
 好屋紙の原るの月を居たり上  
 約訓をかしくのつね好紙を  
 月入るに似りたる帯紙を  
 出送入の考きさうき紙牀  
 とを造りしに似るものりき紙牀  
 造りたるをかしきや好紙を  
 好るを造りしを美き紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を

完和

耕四

柳依

里夷

干真

庭推

和陽

唯最

為山

里彦

向彦

知月

殘品

牡丹

好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を

白牡丹

苗葉

葵子不

好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を  
 好るを造りしを好紙を

陵山

美翠

清風

疏甫

月歩

長莊

香山

余作

流雲

仙鶴

秀芳

夏

白塔子

霜ふつと秋の細き川に  
秋の白の葉をたりのむ  
上毛 梅山

ふつと白の葉をたりのむ  
上毛 一朗

玉川の流る川に  
上毛 種好

子の戸戸田を  
上毛 楊葉

きりきり  
上毛 扇二

長き川に  
上毛 布太

丹波の川に  
上毛 路風

丹波の川に  
上毛 聴長

雁州

紅葉

紅葉の川に  
古武吉 赤淵

紅葉の川に  
古武吉 白笠

紅葉の川に  
古武吉 橋村

紅葉の川に  
古武吉 一朗

紅葉の川に  
古武吉 菊海

紅葉の川に  
古武吉 秋后

紅葉の川に  
古武吉 小石

紅葉の川に  
古武吉 紫堂

紅葉の川に  
古武吉 陶堂

夏

木下園

木下園の世帯  
木下園 紫人

病葉  
わらわの葉はきりぎりす  
病葉のふもろききりぎりす  
ささきの葉のふもろき  
わらわの葉はきりぎりす  
病葉のふもろき  
ささきの葉のふもろき  
わらわの葉はきりぎりす  
病葉のふもろき  
ささきの葉のふもろき

葉燭  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす  
葉燭のきりぎりす

葉折  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす  
葉折のきりぎりす

以 子 一 匝 雅 並 素 就 由 水 不 入 函 関 左 落 照 物 量 富

梅窓  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす  
梅窓のきりぎりす

舟の窓  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす  
舟の窓のきりぎりす

不弁木

の中の種よむむす中木弁木  
明物ます折をまかす一弁木

上毛

石栗  
浮猪

見色一と重うありうむお木

種好

私よりささいあ一む弁木

葛富

名楓

おれいふ木もあゆゆき多楓

世多

桂素

風まらふ露の清きよわこの楓

重え

五化

産押さるお木高直しやうら楓

重え

多和

平巻  
巻巻

虫喰いあまら玉巻巻巻巻

甲巻

儀物

桐名

伸る影えんえ玉巻巻巻巻

甲巻

通志

産葉まらまらまらまら桐のむ

五節

蕨尔

佇り蕨まらけ之桐のそれ  
ま空子白あまらる平桐のむ  
風まらるむむむむむむむむ  
おま葉ま向の巻何りむの桐  
振うけ一子苗の派や蕨のむ  
まらららららららららららら  
向まあのおさねてふ一蕨のむ  
うとま運しりやうらまらまら

溪集  
折加  
田舟  
卷一  
大仁  
木登  
添巻  
有節  
嵐富  
木公  
震英

柚尔

柚のむや金木まら一を保の上  
柚のむや産木まらまら何り不  
蕨保の端まら白むむ柚のむ  
まらまらまらまらまらまら

上毛  
木公  
嵐富  
震英

夏

宮脇

かてきり子子美の海る木抄

袖の木のかてりてハ海自初

高の木のつる木をいれり

さむ木やのさつりき前縁

高木のかさりき木葉下

木葉葉子さつりて吹子たり

伸らりてさきさきさきさき

ハハヤハヤハヤハヤハヤ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

折

道

葛

梅

涼

木

木

木

木

木

柿

候々ハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

柿

柿

柿

柿

柿

柿

柿

柿

柿

柿

夏

十一

葉子種くけく家あきまなりけり  
 備書の所をえんまきまなりけり  
 本條香の香斗りゆけりなりけり  
 裾屋多也の海しきなりけり  
 本の所のす本の後まきなりけり  
 との所は一か子まのりまなりけり  
 不けりハ五香のけりなりけり  
 一本つりうまんとかんと  
 空の厚まき味や  
 風香や流よりけりハ五本ま  
 五本まはけりハ五本まの香  
 葉子種くけり一様まきなりけり

梅 笠  
 忘 徳  
 天 均  
 九 友  
 生 丘  
 乙 居  
 色 年  
 五 部  
 臣 重  
 藤 忠  
 香 粒  
 叶 以 信

舟子  
 舟の子戸出の香を細ふり  
 舟の子まのけりハ五本の香  
 舟の子戸出の香のけりハ五本の香  
 舟の子の伸くまのりハ五本の香  
 葉の井まのりハ五本の香  
 是のけりハ五本の香のけりハ五本の香  
 今けりハ五本の香のけりハ五本の香  
 けりハ五本の香のけりハ五本の香  
 是のけりハ五本の香のけりハ五本の香  
 舟子種くけりハ五本の香のけりハ五本の香

梅 差  
 白 鷗  
 春 竹  
 如 竹  
 高 二  
 梅 笠  
 精 二  
 儀 物  
 一 湯  
 蒸 粒  
 一 具  
 尾 介

夏

十三

葉

重く梅のつぼみはさかしくおどろき  
 弁ふき花のさきさきいふもくもく上毛  
 船もふ海もくもくもく一國花  
 雲もさかき花もさかきさかきさかき  
 社宇峰は木もさかきさかきさかき  
 羽休めは花もさかきさかきさかき  
 青葉の赤もさかきさかきさかき  
 葉もさかきさかきさかきさかき  
 鶺鴒 鶺鴒の情の程さかき  
 面もさかきさかきさかきさかき  
 心もさかきさかきさかきさかき  
 身もさかきさかきさかきさかき

兼山 谷川 雲雲 洞窟 山岩 折新 好新 桂水 月塵 黒石 天均

閑古香

高つて居るもさかきさかきさかき  
 一ののちのさかきさかきさかき  
 心もさかきさかきさかきさかき  
 さかきさかきさかきさかきさかき  
 さかきさかきさかきさかきさかき  
 水船もさかきさかきさかきさかき  
 行もさかきさかきさかきさかき  
 一羽居るもさかきさかきさかき  
 峰もさかきさかきさかきさかき  
 さかきさかきさかきさかきさかき  
 さかきさかきさかきさかきさかき  
 さかきさかきさかきさかきさかき

差費 甘糰 海堂 万香 玉葉 雲雲 木塔 色手 花手 一羽

若菜雀

夏

花

老琴

よきものばして... 附新の琴より老より  
琴の老なる事や怪の因  
琴の老なる事は世に  
琴の何よりよき老より  
琴や老なる事本も老より  
かき守りや既極老なる事  
かき守りや既極老なる事  
かき守りや既極老なる事  
かき守りや既極老なる事  
かき守りや既極老なる事

海布 梅笠 の結 叔白 以風 双霞 石亦 我矣 福也 五粒 小棠 南校

編幅

膝子

楊牛

出の如くあり... 月子藤女家より  
兄つられの舞き半より  
長降や我りの舞子あり  
長降や我りの舞子あり  
長降や我りの舞子あり  
長降や我りの舞子あり  
長降や我りの舞子あり  
長降や我りの舞子あり  
長降や我りの舞子あり  
長降や我りの舞子あり

洪石 丁厨 豊雅 一山 有月 帽醒 鳳洞 龜洞 里素 確岩 如竹

琴

初琴

袖廻

夏

指



字の筆のつるきさの筆の  
 夕雲子筆のあはるあはる  
 有際を志出子行筆の  
 風の筆字よりつるきさの筆  
 飛や筆蘭田子筆のあはるの筆  
 一めん子筆のつるきさの筆  
 長筆素の筆のつるきさの筆  
 子性さの筆のつるきさの筆  
 多筆の筆のつるきさの筆  
 是のつるきさの筆のつるきさの筆  
 巻のつるきさの筆のつるきさの筆  
 妹のつるきさの筆のつるきさの筆

楓葉  
 幽谷  
 蓮浦  
 白峰  
 蒼富  
 味香  
 五遊  
 蒼古  
 謝堂  
 立宇  
 古武  
 葉葉

夏  
 楓葉  
 幽谷  
 蓮浦  
 白峰  
 蒼富  
 味香  
 五遊  
 蒼古  
 謝堂  
 立宇  
 古武  
 葉葉

夏

廿五



暮

夜 蛙

夕月平飯吟先の暮り新  
 梅子新く丸くくさく蛙  
 浜り引舟のさきさきおつるの  
 風さりしそゆ啼くう其のそ  
 暖暖は陣向を恋きよ新蛙  
 ありけぬ白くさくさはは蛙  
 川町の散ふさくさく五月日  
 雲ハ渡物と思ふく五月日  
 ありぬりも雲の出る五月日  
 鶴の尾を泥よ引く五月日  
 雲まのくさかきくぬ五月日

田富 暮 由 哲 月 磨 梅 玉 梢 月 雲 桑 雷 村 好 之 重 經 聰 也

桑 月

暮 蕭

引物一州の根のつる五月日  
 白くさくさくさ五月日  
 人の手よりさくさく五月日  
 暮蕭中暮蕭を提す五月日  
 白風の宿りも五月日  
 梅も新く砂浜に五月日  
 一雨の清けな五月日  
 新に舟が新に五月日  
 天々代や舟の新に五月日  
 子さくさくさく五月日  
 子さくさくさく五月日  
 子さくさくさく五月日

田富 暮 山 亦 佳 峰 不 及 大 庭 森 岡 繁 五 梅 星 杜 流 一 新 石 邊

暮 蕭

暮 蕭

暮 蕭

夏

廿二

粽

蘇丹の傳説に云く、そののちを江戸に傳へ  
粽は子の手をうらむるに當りて  
婦人の口を封じておぼしめし、  
曾よりの子供に傳へて居る粽は  
一押除し、そのころに居る粽は  
手洗うる先、茶をうらむるに當りて  
蘇丹の傳説に云く、そののちを江戸に  
此菓子の葉より、一を粽の形  
葉の形の餅を、六のや、粽の形  
葉より、川風をうらむるに當りて  
葉玉の形を、一を粽の形に  
葉玉の形を、一を粽の形に

只漢 梅亭 桐古 乙人 葉少 秀芳 折依 冰佳 在我 由野 子瑞 喜心

桐餅

葉玉

葉降

開草

競馬

初臈

葉降、和干盤口の口、  
只傳説に云く、そののちを江戸に  
傳へて居る葉降は、  
餅の形の餅を、六のや、粽の形  
葉より、川風をうらむるに當りて  
葉玉の形を、一を粽の形に  
葉玉の形を、一を粽の形に  
蘇丹の傳説に云く、そののちを江戸に  
此菓子の葉より、一を粽の形  
葉の形の餅を、六のや、粽の形  
葉より、川風をうらむるに當りて  
葉玉の形を、一を粽の形に  
葉玉の形を、一を粽の形に

首丸 指醒 墨迹 久垂 梅笠 松崎 茶室 乙人 花川 一處 有處

夏

大

懺

惟字

字物

進ヶ糸

それくとのほりてを押さる  
眼の先のきしりのほりて  
石所や惟字時の夕暮り  
かゝるや敷きぬる眼も  
惟字や藤の初めは  
うさぐさのほりてのま  
惟字や木づけのま  
手を引てはま先  
飛風やふれ  
なごのハ行手出  
ひうけり  
岸坂や海人の

守月  
再園  
庭園  
礪山  
伯主  
権水  
万千  
崔岐  
一歳  
石座  
立字  
墨函

友羽織

井物

有喜

入物

想より先手  
るあう  
人のま  
おりの家  
井物  
井物  
向の下  
有喜  
有喜  
魚釣  
揚き  
是の

中  
好聚  
沙鷗  
可  
一  
種  
無  
負  
海  
大江  
桑山



田極

清い水清けぬ袖よ席く白  
もる紫もまつこころけり席く白  
鳴きさうちまの降やとらるる白  
陸きう熱衣の豊きや夏の月  
夏の月暮る光悟の鑑手さ  
瑞血を衣の唾やと夏の月  
曇る月もささ夏の月  
湯よりぬる衣もささ夏の月  
思ふ好月も心もささ夏の月  
新きき屋もささ夏の月  
磯もささ風の吹き夏の月  
つらまのささ夏の月

鳳 破  
木 琴  
昇 月  
松 竹  
岡 餅  
好 家  
物 仙  
望 姥  
小 杉 女  
文 哉  
玉 葉  
確 炭

田極

梅さのこの田十和子月とさ  
手えふと風子新に田極や  
梅上と上手の志き田つら  
百里梅ささ夏の月  
賑々ささ夏の月  
子乙女やささ梅ささ夏の月  
子乙女の飛石ささ夏の月  
子乙女や帯もささ夏の月  
子乙女の芳ささ夏の月  
子乙女や泥もささ夏の月  
子乙女の梅もささ夏の月  
子乙女の梅もささ夏の月  
子乙女の梅もささ夏の月

尺 弁  
鳳 頭  
梅 園  
菓 山  
一 秋  
春 園  
昔 古  
氷 佳  
寸 出  
古 眼  
千 本  
白 差

夏

十一





浮州の陸... 千壽  
 藤中... 一毫  
 ... 吳羊  
 ... 乃著  
 ... 桂素  
 ... 知月  
 ... 如月

不具又

未橋也

紫陽花

紫陽花... 下毛  
 ... 山歌  
 ... 井藤  
 ... 梅屋  
 ... 梅仙  
 ... 通志  
 ... 志徳  
 ... 一毫











火串

家内りりるるを 迄よれまの 照射  
 庵てねるるを 照射るるのりりり  
 照射るるの 手 照射よりよめま  
 茶室より 庵くのりる 茶室  
 山より 照射るるのりりる  
 南風より 庵くのりりる 茶室  
 中 庵くのりりる 茶室  
 中 庵くのりりる 茶室  
 南風より 庵くのりりる 茶室  
 夏山より 庵くのりりる 茶室  
 夏山より 庵くのりりる 茶室

白 向  
 雀 樓  
 要 五  
 夏 蔭  
 山 殿  
 一 綱  
 櫻 吹  
 奈 泥  
 奈 泥  
 由 雲  
 以 兒  
 梅 石

颯物

夏山

夏山より 庵くのりりる 茶室  
 夏山より 庵くのりりる 茶室  
 夏山より 庵くのりりる 茶室  
 夏山より 庵くのりりる 茶室  
 夏山より 庵くのりりる 茶室  
 夏山より 庵くのりりる 茶室

由 雲  
 以 兒  
 梅 石

夏野

老うううう 庵くのりりる 茶室  
 老ううう 庵くのりりる 茶室  
 老ううう 庵くのりりる 茶室  
 老ううう 庵くのりりる 茶室  
 老ううう 庵くのりりる 茶室  
 老ううう 庵くのりりる 茶室

我 長  
 寸 長  
 西 長  
 尺 長  
 水 長  
 可 合  
 梅 雲  
 以 兒  
 折 如

六月

六月の 庵くのりりる 茶室  
 六月の 庵くのりりる 茶室  
 六月の 庵くのりりる 茶室  
 六月の 庵くのりりる 茶室  
 六月の 庵くのりりる 茶室  
 六月の 庵くのりりる 茶室

以 兒  
 折 如

夏





山玉

きぬん舎やあつ人のあつるあつる  
きぬん舎や思ふあつるあつる  
月祥のあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
江戸子あつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる

城石 上毛 羽布 下毛 古風

土用

天の川十九と申す申す  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる

上毛 古風 素交

玉用

あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる

上毛 古風 素交

目若

あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる

上毛 古風 素交

空天

あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる

上毛 古風 素交

日盛

あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる  
あつるあつるあつるあつるあつる

上毛 古風 素交

夏





單

疎水も清き言まらば舟中人  
人情の好むとてまはる戸外  
あふあふと嬉しき言まらば  
月影のよき人平たかあふ  
風よりの涼し戸たかあふ  
戸まはるの言まらば戸たかあふ  
夏涼の言まらば戸たかあふ  
夏涼の言まらば戸たかあふ  
夏涼の言まらば戸たかあふ  
夏涼の言まらば戸たかあふ

任法  
か

金藏  
悠平  
通志  
西迹  
昇月  
粟五  
高田  
梅仙  
氷住  
結樹  
夏水  
夏水

納涼

夏涼

夕涼

風涼

雨涼

涼臺

夕涼の言まらば大空戸夕涼  
焼酎の言まらば戸夕涼  
ふそ見申す格の言まらば夕涼  
涼風よりの言まらば夕涼  
夏風の言まらば夕涼  
夏風の言まらば夕涼  
夏風の言まらば夕涼  
夏風の言まらば夕涼  
夏風の言まらば夕涼  
夏風の言まらば夕涼  
涼臺の言まらば夕涼  
涼臺の言まらば夕涼  
涼臺の言まらば夕涼  
涼臺の言まらば夕涼  
涼臺の言まらば夕涼

夏涼

夏涼  
里麦  
梅仙  
九記  
丁和  
管金  
夏水  
一具  
州公  
蘆宇  
山教  
文之

夏

三十四

涼

月涼一船を揚る燈葉花  
涼一さの菅田をえんさくは涼水  
兄のけふよし侍さくき浦家  
明る涼はけりて涼一さ燈一水  
涼一さや釣さる人乃申上縁上毛  
涼一さやの田子いさるあのみ  
涼一さや秋のさけりさる  
あささく涼一ささ字や竹林  
涼一さく涼一ささく磯の崎  
川汐のささるあて風かさるる  
新家や住いさけりて風かさるる  
那市の涼一さくあり風かさるる

風葉

秋 雅  
梅 曉  
折 加  
暮 園  
嵐 和  
暮 云  
子 美  
一 陽  
梅 仙  
空 流  
白 雲  
往 洞

友生

兄をよの二階持りて風かさる  
人夢のあさるるさく一や友生  
那川や月をさるあて友生  
細おのち早るりや友生  
船子さぬ料短のさや友生  
おあのみささるるや一軒の風  
おあやほ先子あき風ゆさる  
おあのみさくつ子あては往る  
おあやあさるるあけき人通り  
おあや入りの秋のあさるる  
おあやあさるるの秋のあさるる  
おあやあさるるの秋のあさるる

おあ

秋 雅  
梅 曉  
折 加  
暮 園  
嵐 和  
暮 云  
子 美  
一 陽  
梅 仙  
空 流  
白 雲  
往 洞

清水

夏

三十一



河清平田まの志をぬきさうり 上毛

河清平濁りまの志をぬきさうり

河清平敷き水の水の清

河清平葉の露笑の無事春しあひ

河清平葉うらま消るるの信

河清平松くくまきふふの咲

河清平青くくまきふふの咲

我の葉の少くは清きを養ふ

振りもまを伸るふささきを養ふ

蒲の穂や目まるとま一風の中

鶴園

可

以

墨

木

梅

月

南

西

玉

里

左

穉名

かまの穂や新田の穂も穂は清  
涼さのまを伸るふささきを養ふ

穉丸

唯

梅

柳

大

志

在

沙

為

氷

甘

梅

凌宵名

凌宵の家内留雪之憂のうら  
凌宵や風も新うぬ日和を

凌宵や行命山を志乃先

夕秋や鳥もえ作て言出

夕秋や鳥もえ作て言出

夕秋の葉うらま消るるの信

夕秋や鳥もえ作て言出

夕秋





火取虫

毛虫

川將

蕨をふるしそふの葉りや

又通一のよの中をたつる志のふ

おろけと風新しりやつり志のふ

次はるはあつらふと物や火を虫

川中の物も通ふや火を虫

来ようしと思ふ物や火を虫

そとそとそとおのハ遊たりそとそ

そとそとそとおのハ遊たりそとそ

おのうそとそとそとそとそとそと

おのうそとそとそとそとそとそと

川將や火を虫の火を虫

蕨

通一

風新

物や

川中

来よう

そとそ

そとそ

おのう

おのう

川將

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

川將や火を虫の火を虫

一 黄

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

一 山

夏

三

白葉

留書あわしを出にきし一爪  
梧子うらまの種を戸吹一爪  
眼子一子喰ふかたん戸吹一爪

素雲  
如山  
真珠  
天竺  
帳糸  
素白  
珠白  
西子  
一秋

心太

未之人の袖をかきる戸吹葉の  
類子うらまの種を戸吹一爪  
有喜を家ぬきうらまの種

伏休  
為云  
一秋

冷汁

冷汁戸吹一の虫いしうら  
冷汁戸吹風ぬきうらまの種  
料我の種をうらまの種一爪

徳成  
墨速  
界月  
剛富

冷書

秋書の亦の地を戸吹一爪

剛富

水飯

冷書戸四五丁夫のゆきひあ  
冷書戸器のうらまの種を  
秋書戸器のうらまの種を  
有飯戸吹葉の種をうらまの種

界月  
一  
紫  
乙  
以  
井  
丁  
古  
分  
西

蓄水

蓄水戸吹葉の種をうらまの種  
恒紙一子蓄水の書もゆきひあ

井  
丁  
古  
分  
西

一衣

狩人を一衣を免うら一衣を  
美子ゆき増し未子系一衣を  
一衣を二衣をうらまの種を

古  
分  
西

形代

形代戸吹葉の種をうらまの種

西

夏

三



夏果

口の著て厚くはれは果よりなる  
 黒いの子は終結して夏はさきより  
 けいれいもその年の春やさきより川  
 赤くもなりもあつて水に入折れり  
 赤んぼりや聖風も出熱さきよ  
 冥湖子のうらまきもや果の中  
 身を怪しよきもあきの白の珠  
 さけあきの心通しを流の古  
 聖の赤しはれは土地めし柳  
 果の古や近い流はゆるぎな  
 赤くもなりもあつて水に入折れり  
 松の石や口の白くしを果の位

岱  
 西  
 峯  
 松  
 弘  
 赤  
 知  
 幽  
 城  
 赤  
 柿  
 然

混雜

うつらもあつてをりき果のの葉  
 赤くもなりもあつて水に入折れり  
 赤んぼりや聖風も出熱さきよ  
 冥湖子のうらまきもや果の中  
 身を怪しよきもあきの白の珠  
 さけあきの心通しを流の古  
 聖の赤しはれは土地めし柳  
 果の古や近い流はゆるぎな  
 赤くもなりもあつて水に入折れり  
 松の石や口の白くしを果の位

葉  
 赤  
 柿  
 然

